

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価 (3月10日 実施)	総合評価(3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	① 生徒の学習意欲を高め、進路実現に応える教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。  ② 在県外国人の校内支援体制を構築する。	①生徒が主体的、協働的、探求的な学習に取り組めるよう授業改善に取り組む。  ①H29年度入学生の3年次の学校設定科目の内容を確定する。	①アクティブラーニングの研修を行うと共に、研究授業・生徒による授業評価を通じ、生徒主体の授業改善に取り組む。  ①平成30年度で総合学科と単位制普通科が混在できるように、教育課程の編成及び年次進行型に対する教務規定を制定する。  ②在県外国人支援チームをグループ横断的に編成し情報共有を図り、教育課程や課題の解決を検討・協議し、機動的に取り組み支援体制の構築を図る。	①研修会及び研究授業実施の有無、生徒による授業評価の項目Ⅳにおける「4とても当てはまる」+「3当てはまる」の回答率が80%以上となったか。また、「魅力と特色づくりアンケート」で「大変満足している」+「満足している」+「おむね満足している」の評価項目の回答率が50%以上となったか。 ①単位制普通科の教育課程編成及び教務規定を定めることができたか。 ②在県外国人検討チームの取組が在県外国人に応じた教育整備や支援の必要な生徒の指導に生かされ、課題の解決につながったか。	①事前研修会を行い、研究授業・研究協議を実施した。生徒による授業評価の分析が大幅に遅れたため、教科・教員へのフィードバックが不十分になってしまった。 ①項目Ⅳ「生徒主体の授業の工夫」において前期は80.2%、後期は85.5%で達成することができた。 ①「魅力と特色づくりアンケート」について、生徒の結果については50%以上を達成することができた。保護者の結果がでなかった。 ①平成30年度の教育課程及び総合学科と普通科のカリキュラムについて検討した。 ②在県外国人生徒の支援チームと連携を図り、教育課程の見直しを行った。また、会議を定期的に行い、在県外国人生徒の抱える問題の集約と共有を行った。	①アンケートをもとにさらによい取組みや方法を検討する。生徒による授業評価の処理方法の改善を行い、さらに回答率の向上の検討を行っていく。 ①検定・資格・認定試験等について保護者に向けて、情報提供の改善を図る。 ①課題を集約し改善を図り、全職員に向けて情報の共有を行い、提案し決定をしていく。 ②授業等での支援方法についての具体的な方策を検討していく。	①ワークライフバランスが求められるが、必要な支援をしない時期はある。カリキュラムの弾力的な運用で、本校では改善をはかっている。	①新しいスタイルの研究授業を行うことで組織的な授業改善を進めることができ、評価の観点を達成することができた。 ①検定・資格・認定試験等について保護者への情報提供が課題となったが、生徒の受検者は昨年度と比べ20人増加した。 ①平成29年度入学生の3年次教育課程の見直し及び平成30年度生の2年次・3年次教育課程の見直しができる。 ②在県の取り出し授業の担当で会議を行い情報の共有を行った。	○生徒による授業評価の有効的な活用方法を明示するとともに、項目Ⅳの「4+3」が80%に満たない教科への改善を促す。 ①保護者に向けての資格取得情報等の情報提供の方法について次年度検討し改善を図る。 ①平成32年度入学生から変わる新学習指導要領を見据えた教育課程の検討を始め、半期に一度は情報共有の場を持つことで情報や課題の共有に努める。 ②在県生徒の多様な進路選択を可能にすべく、教育課程検討委員会との連携に努める。
2 生徒指導・支援	①基本的な生活習慣の確立と身だしなみの指導を徹底するとともに、生徒一人ひとりの課題に応じた支援体制の充実を	①遅刻防止指導や身だしなみの指導等を行い生徒の規範意識の醸成を図るとともに、集団活動を通して社会性の涵養を図る。 ②課題を抱える	①基本的なルールを職員全員で再確認し、学校全体で日常的、地道な生徒指導を継続し、生徒自身の気づきを引き出す指導を行う。  ②日常的な生徒対応から課題を抱える生徒を早期に見出し、ケース会議等を通し	①遅刻防止指導を年10回、頭髪指導年5回実施し、生徒の規範意識の向上につながったか。  ②ケース会議の取組や生徒情報交換会の実施により、支援の必要な生徒の	①遅刻指導・頭髪指導を予定通り実施し、生徒の生活習慣改善に成果を上げることができた。 ①全校集会での服装指導や話を聞く姿勢など規範意識の醸成を図り、社会性の涵養を図ることができた。 ②ケース会議、生徒情報交換会(4月、7月)を開き、校内での情報の共有を進めるとともに、必要に応じて外部の支援機	①教職員全員による指導体制を確立していく。  ②課題を抱える生徒を早期に見出し、適切な支援が出来るよ	①5回の頭髪指導を実施した。遅刻指導は複数回取り組むことができた。 ①大半の生徒が服装や話を聞く姿勢について、意識を持って行動することができた。 ②課題を抱える生徒への理解を深めるため外部講師を	①生徒支援や担任だけでなく、学校全体での指導体制構築を目指して、指導方法等の整理・共有化を進める。 ②多様化する生徒の課題を共有し、外部機関とも連携して早期発	

視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者 評価 (3月10日 実施)	総合評価(3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	図る。	生徒の全体的な把握と個別理解を進める。	て適切な対応をとる。	課題解決につながったか。	関とも連携して繋げることができた。	うにとり組む。		招聘して対策会議を持つ等の取り組みを行った。	見、早期対応に取り組み、集団での指導体制を充実させる。
3 進路指導・支援	外部の教育力を活用し、「進学を重視した学校」として生徒の進路指導の充実を図る。	①適切な進路情報の提供を行うとともに、体系的な指導体制を構築する。	①特色科目(総合学科)、総合的な学習の時間(1年)を利用したキャリア学習のほか、上級学校見学会(2年次)や進路講演会(各年次)、受験ガイダンス(3年次)等で外部教育力を活用した進路指導を行う。	①4年制大学進学率が昨年度比10%増となったか。 ①センター試験受験者数が100人を超えたか。 ①模擬試験、資格取得試験の受験者数が昨年度比20%以上となったか。	①4年制大学進学率は、13%減となった。 ①センター受験は、100名の受験出願があった。 ①外部テストの実施により、通常の学習で足りない点に生徒自ら気付かせることができた。	①高大接続入試改革の動向を研究し、実力テストの回数増とGTEC実施を中心にして、進路指導の改善を行う。結果分析をもとに、個人面談の実施などきめの細かい指導を行う。	①保護者として教員が、廊下で勉強を教えている姿など、生徒一人ひとりに対してかかわって、生徒と教員との信頼関係を作っている。	①1年次、社会人向け基礎力を意識できた。2年次、大学見学を通じ、何のために学ぶのか、将来の自分を考えることから今の自分が見えてくる等の講話を行った。3年次、進路意識を高め、受験に向けた学習に積極的に取り組んだ。 ①4年制大学進学率は、生徒の希望を踏まえ、ガイダンスを充実させる必要がある。	①生徒が、一般受験までを計画的に取り組むことができるように、進路指導の方法等を見直す。個別カウンセリングを含め、一人ひとりが持てる力を伸ばすことができる指導体制を研究し、指導の質を高める。
4 地域等との協働	学校運営協議会制度の導入に向け、地域との連携・協働を進め、地域に信頼される学校づくりを進める。	①地域貢献活動やボランティア活動等を通して交流活動を推進するとともに、学校の取組について外部への情報発信を活性化させる。	①保育園ボランティアへの参加増を目指し、地域貢献活動の充実をはかる。 ①清水ヶ丘ケアプラザ・保育園との合同の避難訓練を実施する。 ①HPの充実を図り、学校の取組等の情報発信を活性化させる。	①ボランティア活動への参加者が昨年度比10%以上増となったか。 ①生徒の防災意識が高まったか。 ①HPの更新回数、閲覧回数が昨年度比20%増となったか。	①保育園ボランティアは前年比23%増と目標を達成した。 ①清水ヶ丘ケアプラザ・保育園との合同の避難訓練を実施した。 ①HPの更新は着実に進んでいるが、新校のHPの設定が遅くなり、検索エンジンで容易に閲覧可能となるまでに時間がかかり、単純に昨年度の閲覧回数を比較することができない。	①保育園ボランティアは普通科の1年生が少なく、進路との関連が深いことがわかる。したがって来年度以降は目標の見直しが必要。 ①引続きHPの充実を図っていく。		①保育園ボランティアは増えたが、その他のボランティアは伸び悩んでいる。 ①清水ヶ丘ケアプラザ、清水ヶ丘保育園との共同の避難訓練を行い、地域との連携・協働を図ることができた。	①普通科生が増えていく中、新たなボランティアの在り方を考え、開発する必要がある。 ①来年度も取り組みを続け、地域に信頼される学校づくりを努める。
5 学校管理 学校運営	①私費会計の適切な管理、運営を行う。 ②定期テストや入学者選抜の際に事故防止に取り組む。	①帳簿の相互チェックと迅速な処理を心掛け、事故防止に努める。 ②不祥事防止に努め、教職員全員の意識高揚を図る。	①私費会計の適正な執行について、事故防止会議等で、研修の機会を持つ。 ②マニュアル遵守、シミュレーションの実施などを通じ、入学者選抜業務での事故を完全に防止する。 ②定期テストの共通化を行い、作問内容の適正化とミスの事前防止に取り組む。	①会計の適正な執行についての理解が高まったか。 ①研修会の実施により会計の適正な執行についての理解が深まったか。 ②事故を完全に防ぐことができたか。 ②定期テストの共通化率が昨年度比20%以上となったか。	①会計処理について職員の理解が高まり中間監査で各会計の処理が評価された。 ①定期的に事故防止会議を開き、事故防止に努めているが多少のミスが残った。 ②成績処理シートの変更を周知することができたが、ミスが出てしまった。また、殆どの教科で定期テストの共通化をすることができた。 ②入試選抜要項を整備し、シミュレーションを計画してミスを未然に防ぐ準備ができた。	①私費会計の適切、迅速な処理を進め、事故防止会議でミスをなくす取り組みを推進する。 ②成績処理シートの扱い方についても周知を広める。 ②今後の県の指示により、さらなる対応が必要になる。		①行事関係の会計は、速やかに処理する事ができた。 ②成績処理マニュアルをさらに分かり易く改定し事故防止に努めたが、成績処理シートでのミスが目立ち、修正に多くの労力を要した。 ②面接評価の際の基準が十分明確でないため、評価しづらい面があった。	①適正な会計手続きを生徒にも徹底し、より迅速な処理を目指す。 ②分かり易いマニュアルの作成と早めの周知で教科内での点検強化を行う。 ②面接評価基準を具体的かつ明確にし、合わせて評価の集計方法を改善する。